# 日本コミュニティ心理学会 第22回大会 プログラム

「地方と都市のコミュニティを考える」

会期 2019年6月22日(土)·23日(日)

会場 追手門学院大学 茨木安威キャンパス 5 号館

大会長 石盛 真徳

## ごあいさつ

この度、第22回大会を追手門学院大学茨木安威キャンパスで開催することになりました。 ここ2年は連続して東京開催となっておりましたので、東京以外での開催は2016年の作新学院大学・作新学院大学女子短期大学部での第19回大会以来となります。関東以外での開催となりますと、さらにさかのぼって2014年の立命館大学衣笠キャンパス以来の5年ぶりとなります。

さて、このように久しぶりの東京以外での開催ということもあり、本大会のテーマは「地方と都市のコミュニティを考える」といたしました。首都である東京に対してはそれ以外の地域は地方となりますが、地方にもそれぞれ特徴的な歴史・文化を有する中核的な都市があり、その周辺部には郊外、農村地域、中山間地域、あるいは漁村地域など多様な地域が広がっています。今回の大会を通じて、地方と都市をキーワードに、コミュニティ心理学的アプローチが多様な地域コミュニティに対して、どのように貢献できるのかを改めて考える契機とできればと考えております。

追手門学院大学のキャンパスがあります北摂地域の大阪府茨木市には、かつて都の京都と西国を結 ぶ重要な道であった西国街道が通っており、郡山宿の本陣の建物も残っております。地方と都市のコ ミュニティを考える場合、それぞれがかかわりを持たずに存在し得るわけではなく、都市と地方との 間での移動を含めた相互関係について注目することも重要となります。さらに時代をさかのぼれば、 茨木市と隣の高槻市を含む三島平野は日本でも有数の古墳地帯であり、なかでも今城塚古墳は公園と して整備されていて自由に散策を楽しむこともできます。今大会では歴史と文化に思いをはせなが ら、会員の皆様が関わるコミュニティの問題について自由闊達に議論していただく場を提供できれば 幸いに存じます。

なにぶん、コミュニティ心理学会の正会員は私 1 名しかおりません追手門学院大学での開催となります。関西にゆかりのある先生方に大会準備委員としてお手伝いいただき、大会開催に向けての準備体制を整えますが、至らぬ点なども出てくるかと存じます。どうぞ温かくお見守りいただければ幸いに存じます。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

日本コミュニティ心理学会 第22回大会 大会長 石盛 真徳(追手門学院大学)

## 交通アクセス

会 場 追手門学院大学 茨木安威キャンパス5号館 (大阪府茨木市西安威2丁目1番15号)

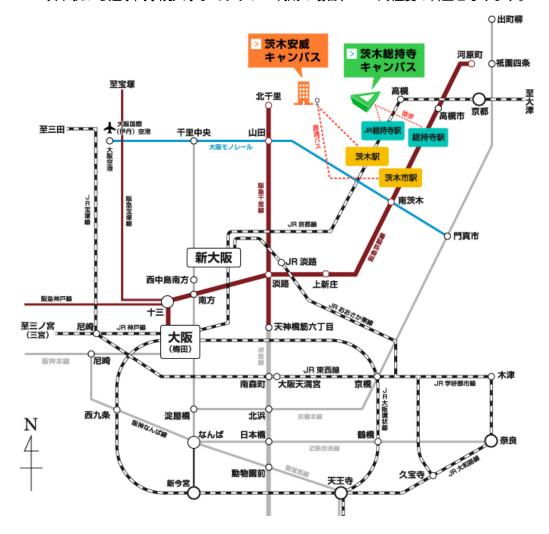
交通アクセス 大阪方面から JR 京都線・大阪駅 → 茨木駅 快速電車にて約 12 分 JR 京都線・新大阪駅 → 茨木駅 快速電車にて約 9 分 京都方面から JR 京都線・京都駅 → 茨木駅 快速電車にて約 27 分

JR 京都線 茨木駅からバス (無料直通バス・有料路線バス) または

大阪方面から阪急京都線・梅田駅 → 茨木市駅 特急電車にて約 17 分 京都方面から阪急京都線・河原町駅 → 茨木市駅 特急電車にて約 26 分

阪急京都線 茨木市駅からバス (無料直通バス)

- ※ 2019年4月より、同じ茨木市内に茨木総持寺キャンパスも開設されております。 お間違えのないようご注意願います。
- ※ 有料路線バス (阪急バス) は、JR 京都線 茨木駅からのみの運行となっております。
- JR 茨木駅から追手門学院大学までタクシー利用の場合、2000 円程度の料金となります。



## <JR茨木駅よりの無料直通バスの出発時刻とのりば>

(茨木安威キャンパスまで、バスで約20分)

出発時刻(土曜·日曜共通): 8 時 55 分発 9 時 15 分発 10 時 15 分発

※土曜日と日曜日で「バスのりば」が異なりますのでご注意ください。

● **22 日土曜日の無料直通バス (無料) のりば: イオンモール茨木横**(JR 茨木駅西口より徒歩 10 分程度)



● 23 日日曜日の無料直通バス (無料) のりば:北おおさか信用金庫前 (JR 茨木駅西口より徒歩2分)



## <JR茨木駅よりの有料路線バス(阪急バス)>

(茨木安威キャンパスまで、バスで約30分 220円)

[82] 系統 8 時 58 分発 9 時 27 分発 9 時 59 分発 10 時 59 分発

詳細は、下記の阪急バス時刻表を参照ください https://www.hankyubus.co.jp/rosen/timetable/012806\_2.pdf

\*バスのりば:JR 茨木駅西口 バスターミナル10番のりば



# **< 阪急茨木市駅よりの無料直通バスの出発時刻とのりば(土日共通)>**(茨木安威キャンパスまで、バスで約20分)

出発時刻: 8 時 55 分発 9 時 15 分発 10 時 15 分発



## <茨木安威キャンパスよりJR茨木駅・阪急茨木市駅への無料直通バス>

● バスのりば:キャンパス内の「直通バスターミナル」

出発時刻 22 日 (土): 16 時 45 分発 17 時 45 分発 18 時 45 分発

23 日(日):15 時 45 分発 16 時 45 分発 17 時 45 分発

## <有料路線バス(阪急バス)「JR茨木駅」行>

● バスのりば:正門横 阪急バス「追手門学院大学前」停留所

[82] 系統 15 時 31 分発 (阪急茨木駅行) 16 時 35 分発 17 時 40 分発

[88]系統 16時05分発 17時15分発

詳細は、下記の阪急バス時刻表を参照ください

https://www.hankyubus.co.jp/rosen/timetable/142301.pdf

# キャンパスマップ



## 会場フロア案内 5号館



5601教室: クローク

5605教室: 第1日目 10:00~11:30 口頭発表1A

11:40~12:40 総会

13:00~15:00 大会企画シンポジウム

第2日目 10:00~11:40 口頭発表2A

14:50~16:30 自主シンポジウム1

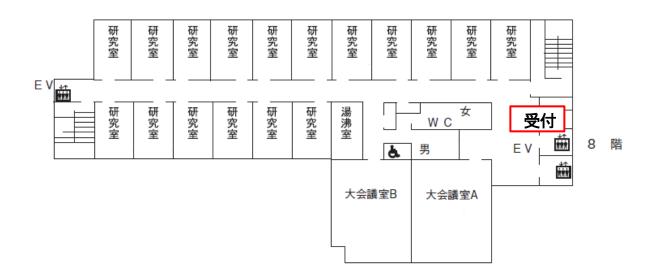
5606教室: 第1日目 10:00~11:30 自主ワークショップ1

15:10~16:10 将来構想委員会企画

16:20~17:50 国際交流委員会企画シンポジウム

第2日目 10:00~11:30 口頭発表2B

11:40~12:40 院生・若手研究者の集い 14:50~16:30 自主シンポジウム2



5号館8階エレベーター横: 受付

大会議室A: 休憩室

大会議室B: 第1日目 10:00~11:30 ポスター発表1

第2日目 10:00~11:30 ポスター発表2

13:00~14:40 ラウンドテーブル1

## 大会参加者へのご案内

#### 1. 受付

第1日・第2日いずれも<u>9:30</u>から受付を開始いたします。 受付場所は、5号館8階エレベーター横となっています。 学生の方は、学生証を携帯してください。

## 2. 参加費等

大会参加費 一般会員 予約参加:6,000円 当日参加:8,000円

臨時会員 予約参加:7,000円 当日参加:9,000円

学生会員 予約参加: 3.000円 当日参加: 5.000円

懇親会参加費 予約参加:5,000円 当日参加:6,000円

#### 3. 名札

受付にて名札をお渡しします。会場内では必ずご着用ください。

#### 4. クローク

6階 5601教室で承ります。貴重品は、ご自身で管理をお願いします。 お預けになった荷物は、第1日目は17:30まで、第2日目16:00までに お引き取りください。

#### 5. 休憩スペース

8階大会議室Aを休憩室としてご用意しております。お気軽にご利用ください。

#### 6. 昼食等

昼食等は各自でご用意ください。両日ともに大学内のコンビニが利用できます。

#### 7. 喫煙

追手門学院大学の建物内は全館禁煙となっております。喫煙は、指定された場所でお願いいたします。

# 懇親会のお誘い

日時 6月22日(土) 19:00~21:00(18:30開場)

会場 ポンパピエロット 茨木市西駅前町10-116(JR 茨木駅徒歩5分)

TEL: 050-3463-7059

参加費 予約参加: 5, 000円 当日参加: 6, 000円

※当日参加については、スペースの余裕がある場合のみ承ります。

## 大会企画・プログラム

#### 1. 大会企画シンポジウム

日 時 6月22日(土) 13:00~15:00

会 場 5605教室

テーマ 「地方と都市のコミュニティを考える」

シンポジスト 竹村 幸祐 (滋賀大学)

加藤 潤三 (立命館大学) 岡本 卓也 (信州大学)

指定討論 安田 節之 (法政大学)

司 会 石盛 真徳 (追手門学院大学)

### 2. 委員会企画

将来構想委員会企画 6月22日(土) 15:10~16:10 5606教室 国際交流委員会企画 6月22日(土) 16:20~17:50 5606教室

#### 2. 自主シンポジウム・ラウンドテーブル

自主ワークショップ1 6月22日(土) 10:00~11:30 5606教室 ラウンドテーブル1 6月23日(日) 13:00~14:40 大会議室B 自主シンポジウム1 6月23日(日) 14:50~16:30 5605教室 自主シンポジウム2 6月23日(日) 14:50~16:30 5606教室

#### 3. 口頭発表

口頭発表1A 6月22日(土) 10:00~11:30 5605教室 口頭発表2A 6月23日(日) 10:00~11:40 5605教室 口頭発表2B 6月23日(日) 10:00~11:30 5606教室

#### 4. ポスター発表

ポスター発表 1 6月22日 (土) 10:00~11:30 大会議室B ポスター発表 2 6月23日 (日) 10:00~11:30 大会議室B

#### 5. 院生・若手研究者の集い

6月23日(日) 11:40~12:40 5606教室 概要 大学院修士課程1年生~修士課程修了後3年未満の方(臨時会員も歓迎) ドリンクと軽食を用意して、お待ちしております。奮ってご参加ください。

#### 6. 総会

6月22日(土) 11:40~12:40 5605教室

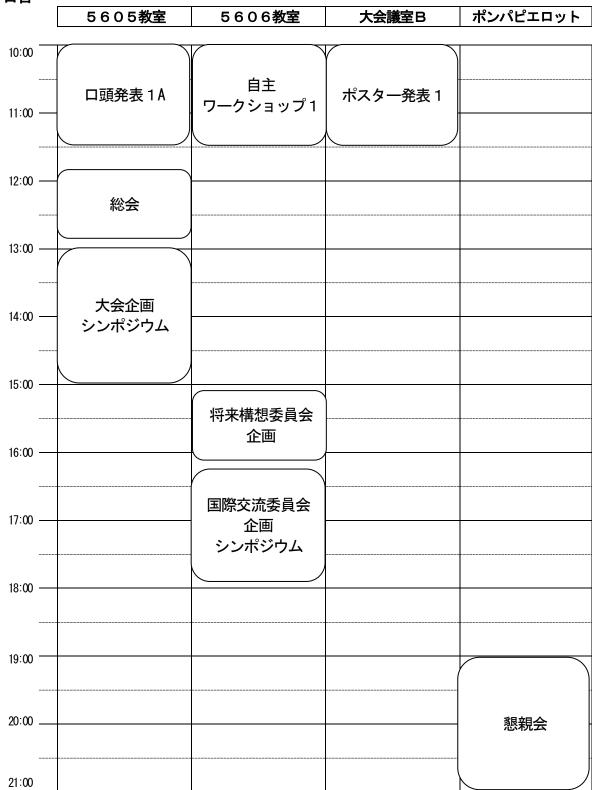
#### 7. 役員会 (理事・監事会)

6月21日(金) 18:00~20:00

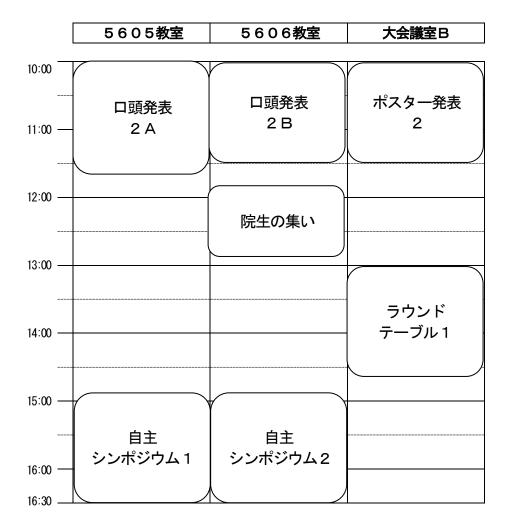
TKP 新大阪駅前カンファレンスセンター カンファレンスルーム 5A(5階)

# 大会日程

1日目



## 2日目



## 研究発表案内

#### A. 自主ワークショップ・自主シンポジウム・ラウンドテーブル

受付: 会場に10分前までにお入りください。

構成: 各セッションは、90分または100分で構成されます。

機器: 各会場にWindows 8、Power Point 2013インストール済みの

パソコンが設置されています。必要な場合は、各自で端末をお持ちください (VGA, HDMI対応)データは念のためUSBメモリでお持ちください。

資料: 当日、資料を配布される方は、各自でご用意ください。配布に関しては、会場係が

お手伝いいたします。なお、資料回収を必要とする場合には、発表者が責任を持っ

て回収・処分してください。

進行: 進行の詳細は、各自でお願いします。

## B. 口頭発表

受付: 会場に10分前までにお入りください。

構成: 各セッションは、90分または100分で構成されます。

発表: 1件につき15分以内

質疑: 1件につき5分以内

機器: 各会場にWindows8、PowerPoint2013インストール済みの

パソコンが設置されています。必要な場合は、各自で端末をお持ちください (VGA、HDMI対応)データは念のためUSBメモリでお持ちください。

資料: 当日、資料を配布される方は、各自でご用意ください。配布に関しては、会場係が

お手伝いいたします。なお、資料回収を必要とする場合には、発表者が責任を持っ

て回収・処分してください。

進行: 進行の詳細は、座長に一任されます。 (※時間厳守でお願い致します。)

#### C. ポスター発表

受付: 会場に5分前までにお入りください。

構成: 各セッションは90分、在席責任時間は45分で構成されます。

在席: 各セッションの在席責任時間中(奇数番号は前半45分、偶数番号は後半45分)は、

在席してください。

発表: 在席責任時間の開始時に、会場責任者の進行に従って、発表の概要を説明してください。

資料: 当日、資料を配布される方は、各自で必要部数をご用意ください。

形状: 横90cm×縦180cmの範囲に収まるよう作成してください。ポスター上部に、発表

タイトル、氏名・所属を明記してください。

掲示: 受付で掲示に必要な文具をお渡ししますので、セッション時間内は指定の場所にポスター

を掲示してください。

# 大会 • 委員会企画

# 大会企画シンポジウム

6月22日(土) 13:00~15:00 5605教室

# 将来構想委員会企画

6月22日(土) 15:10~16:10 5606教室

# 国際交流委員会企画

6月22日(土) 16:20~17:50 5606教室

## 大会企画シンポジウム

1日目 6月22日(土) 13:00~15:00 5605教室

## 地方と都市のコミュニティを考える

シンポジスト 竹村 幸祐(滋賀大学)

加藤 潤三 (立命館大学)

岡本 卓也 (信州大学)

指定討論 安田 節之(法政大学)

企画・司会 石盛 真徳 (追手門学院大学)

#### 企画趣旨

地域コミュニティはそれぞれが独自の歴史・分析的特性を有している。コミュニティ心理学の研究においても、それぞれの地域が有する文化的特性を踏まえた議論がもっと必要ではないであろうか。本シンポジウムでは、地方と都市をキーワードに、地域コミュニティの様々な問題群に、それぞれのコミュニティの歴史・分析的特性を踏まえたうえで、どのようにアプローチしていくのかについて考えたい。 具体的には、都市対地方という対立構造ではなく、地方や都市における人間関係、居場所、あるいは都市と地方の関係について、下記の3名のシンポジストより話題提供いただき議論を行う。

#### 竹村 幸祐 氏 「都市と地方における社会関係」

社会・文化心理学では、人と人の相互作用の中で生み出される「状況」や「文化」が、ひるがえって人の心理・行動にどのような影響を与えるかが検討されてきた。本発表では、文化心理学的関心を出発点としつつ、都市や地方のコミュニティにおける「文化」に注目した研究を報告する。具体的には、日本など東アジアで優勢とされてきた相互協調的傾向が、農村コミュニティにおいてどのように促進・共有されるかについて、都市・農村・漁村を対象に実施された大規模社会調査のデータで検討した結果を紹介する。

#### 加藤 潤三 氏 「地方に在って研究をする:特に地域における縦断的研究から」

いうまでもなく、それぞれの地域には独自の文化と歴史がある。それは特定の地域で研究をする際にも当然かかわってくる問題であり、いかに地域の文化的・社会的な横の広がりと歴史的・時間的な縦のつながりを踏まえながら、研究を設計・展開していくかが重要である。私からは、この地方の歴史・文化をふまえた研究として、沖縄をフィールドとする縦断的研究を紹介させていただく。そしてそこから「地方に在って研究すること」についても話題提供できればと考えている。

## 岡本 卓也 氏 「コミュニティと道 |

コミュニティが成立するためには、コミュニティ内を移動する「道」や、コミュニティ間を繋ぐ「道」が欠かせない。社会学者のジンメルは「橋と扉」というエッセイの中で、地面にはっきりと目に見える形で刻んだ道は、「つながりへの意思」の表れだと述べている。foot-path やロングトレイル、巡礼路などを取り上げ、コミュニティにおける「道」の意味や機能について、お話ししたい。

## 将来構想委員会企画

1日目 6月22日(土) 15:10~16:10 5606教室

## 学会の将来について自由に語り合う会

## 企画趣旨

このセッションは、会員と学会の将来について自由に語り合う会です。昨年度、若手会員数名で学会の将来について意見交換したところ、地方でのコミュニティ心理学会の活動の活性化、若手会員の交流の場、公認心理師時代におけるコミュニティ心理学のあり方など様々な意見を頂きました。そこで、今回は多くの会員が集まる大会の場において会員の皆さんから自由な意見を頂きたいと思います。お時間のある方は是非、立ち寄って頂ければ幸いです。

## 国際交流委員会企画

1日目 6月22日(土) 16:20~17:50 5606教室

## 多文化化するコミュニティにおける心理支援を担う人材育成 ---コミュニティ心理学の役割を考える---

話題提供 大西 晶子 (国際交流委員長/東京大学)

安 婷婷 (筑波大学)

飯田敏晴 (立正大学)

指定討論 高橋美保 (東京大学)

企画・司会 大西 晶子 (国際交流委員長/東京大学)

## 企画趣旨

グローバル化を背景に、日本の外国人政策は新たな局面を迎えている。今後、心理援助の専門家が、 実践の場において、多文化的背景を持つ人々に出会う機会は益々増えていくものと思われる。一方、多 文化的背景を持つ人々への援助において専門家が身につけるべき職能や、担い手を増やしていくための 方策については議論が遅れている。

社会の変化は、必要な援助や援助者の専門性にも影響を及ぼすと考えられ、コミュニティのニーズを 把握し、対応していくことがコミュニティ心理学的アプローチに立つ実践家には求められているだろう。 本シンポジウムにおいては、多文化化するコミュニティにおける支援の拡充に向け、コミュニティ心 理学がどのように寄与することが可能であるのか、特に人材育成の側面に焦点を置き考えていきたい。

大西 晶子 氏 「多文化コミュニティにおける心理援助とは」

安 婷婷 氏 「多言語による心理支援を担う人材の現状と課題」

飯田 敏晴 氏 「教育実践における多文化コンピテンスの育成 |

# 会員自主企画

6月22日(土)

自主ワークショップ1

10:00~11:30 5606教室

6月23日(日)

ラウンドテーブル1

13:00~14:40 大会議室B

自主シンポジウム1

14:50~16:30 5605教室

自主シンポジウム2

14:50~16:30 5606教室

## 自主シンポジウム 1

2日目 6月23日(日) 14:50~16:30 5605教室

## コンサルテーションにおけるアセスメントの視点

話題提供 大林 裕司

(一般社会法人心理支援ネットワーク心 P)

上田 将史

(特定非営利活動法人 志木市精神保健福祉を

すすめる会)

郷 百合野

(上智大学学生局カウンセリングセンター)

企画 榊原 佐和子

(東北大学 学生相談・特別支援センター)

大橋 智(東京未来大学)

司会 榊原 佐和子

(東北大学 学生相談・特別支援センター)

#### 个画趣旨

アセスメントはいかなる心理支援においても根底となる重要なものであり、心理職の獲得すべきスキルの一つである。アセスメントには、心理テストだけでなく、面接を通して得られた情報に基づくものも含まれる。カウンセリングにおけるアセスメントに関しては、さまざまな文献が出版されている(ef. 津川, 2009)。

カウンセリングの場合と同様に、コンサルテーションにおいても、より良いアセスメントが必須である。では、心理職はどのような視点でアセスメントを行っているのであろうか?コンサルテーションにおけるアセスメントは、カウンセリングにおけるアセスメントと同様の視点もありつつ、関わる人が増える分、見るべきところが増える。本自主シンポでは、特に初回面接時において、コンサルタントがどのようなアセスメントの視点を持って場に臨んでいるのか、事例を交えつつ、コンサルテーションにおけるアセスメントの視点を検討し、整理していきたいと考えている。

## 自主シンポジウム2

2日目 6月23日(日) 14:50~16:30 5606教室

## コミュニティ心理学研究・実践における「地方性ー都会性」を問う

(Revisiting Provinciality-Urbanicity Issues in Community Psychology Research and Praxis in Japan)

話題提供者 八田 直紀 (神奈川大学・首都大学東京)

桑山 碧実 (国際基督教大学大学院)

青木 多寿子 (岡山大学)

大内 潤子 (北海道科学大学)

笹尾 敏明 (国際基督教大学)

討論者 奥山 祐介 (防衛大学校)

笹尾 敏明 (国際基督教大学)

企画・司会 笹尾 敏明 (国際基督教大学)

## 企画趣旨

地方と都市におけるサービス、教育、情報量や他の様々な生活空間における格差がより一層顕著となっている昨今、コミュニティ心理学の研究・実践を策定、実施、そして評価する際に、その「地方性ー都会性」をコミュニティ心理学から捉え直す業が急務である。「地方性ー都会性」を単なる独立変数として扱う、つまり単に地方と都市の間に存在するであろう格差に焦点を当てた研究実践では、コミュニティ心理学の立ち上げ以来、課題となってきている「犠牲者責め」を助長することになるのではないだろうか。格差が認められるのであれば、その「地方性ー都会性」の多面性に注目すべきである。本シンポジウムの目的は(1)コミュニティ心理学的視座からみる「地方性ー都会性」を考察し、(2)その分析方法や解釈の事例を元に、いくつかの現場(social settings)における課題や挑戦事項を議論し、今後の研究実践に活用させていくことである。特に、次の現場領域における「地方性ー都会性」に焦点を当てる。①スポーツ選手や学生の社会・情動性、②在日フィリピン家庭におけるメンタルへルスと子育て、③看護医療現場での予防的介入、④ 小中学生における道徳教育、⑤外国人労働者の職場と生活空間である。両討論者は、ニュージランド、北米、東アジアの視点からコメントをする。

## 自主ワークショップ

1日目 6月22日(土) 10:00~11:30 5606 教室

## 多職種連携教育に向けた心理職版ルーブリック(仮)作成の試み

話題提供 荊木 まき子 (就実短期大学)

竹森 元彦 (香川大学)

企画・司会 平野 貴大 (大妻女子大学)

## 企画趣旨

公認心理師制度の開始とともに、心理職にも多職種連携に関する取り組みが求められている。今後の 実践的な教育として、心理職に対しても多職種連携教育の必要性が増してきていると言えるが、多職種 連携の実践に求められる技術や能力は明示されていない。

本ワークショップでは、医療分野での多職種連携教育の実情と課題を踏まえた上で、ワークショップ 参加者とともにカリキュラムとルーブリックの作成を通じて、心理職に対する多職種連携教育で涵養す ることが求められている技術や知識、能力が何かを検討する。

## ラウンドテーブル

2日目 6月23日(日) 13:00~14:40 8階 大会議室 B

## コミュニティ心理学におけるエスノグラフィーの可能性と課題

話題提供 村本 邦子 (立命館大学)

河野 晓子 (立命館大学)

張 亦瑾 (立命館大学)

企画・司会 村本 邦子 (立命館大学)

## 企画趣旨

企画者らは、災害後のコミュニティに入り、「土地の力」とレジリエンスを特定し、そのプロセスを描写するべくエスノグラフィーを続けてきた。エスノグラフィーは人類学に始まり、社会学や教育学などでも用いられるようになったが、コミュニティ心理学においても非常に有効な研究方法であると感じている。American Journal of Community Psychology の掲載論文を検索してみると、"ethnography"の語がキーワードに含まれているものは12本、タイトルに含まれているのは3本あった。そのうち、Case、A. D., Todd, N. R., and Kral, M. J. (2014). "Ethnography in Community Psychology: Promises and Tensions" (54:60-71) は、文化と文脈を捉え、いかにコミュニティに社会変革と行動が起こるかを明らかにし、そのプロセスを描き出すものとして、コミュニティ心理学におけるエスノグラフィーの可能性を提起している。この論文を基礎にして、企画者らによる話題提供を皮切りに、コミュニティ心理学におけるエスノグラフィーの可能性と課題について参加者とともに議論したい。

## <口頭発表>

## 口頭発表 1A 1日目 6月22日(土) 10:00~11:30 5605教室

- O 1A-1 ニュージーランド草の根事業におけるコミュニティ心理士としての役割
   ーマオリ・コミュニティとのソーシャル・アクション実践例ー
   奥山 裕介 防衛大学・コミュニティ リサーチ コンサルティング
- O 1A-2 地域で暮らす精神障がい者のデイケア施設等から次施設へ移行する際の 心理的困難と支援に関する研究

川崎 隆 別府大学

- O 1A-3 東日本大震災の被災地に派遣された自治体職員の体験プロセス
  - ―その困難性とメンタルヘルスの観点から―

北村 三賀子 池袋オリーブメンタルクリニック

久田 満 上智大学

## 口頭発表 2A 2日目 6月23日(日) 10:00~11:40 5605教室

- O 2A-1 異文化シュミレーションゲームによる異文化感受性への教育効果
  - ―支援者に応じた教育プログラムについて考える―

飯田 敏晴 立正大学

O 2A-2 グローバルシティズンシップ科 (GCE 科) の

カリキュラム開発におけるプログラム評価

伊藤 慎悟 上智大学

松倉 紗野香 上智大学大学院、前 上尾市立東中学校

O 2A-3 都市部の在日フィリピン人母親のウェルビーイングと養育自己効力感に

関連する心理社会的エコロジカル要因の検討

桑山 碧実 国際基督教大学大学院

笹尾 敏明 国際基督教大学

O 2A-4 東日本大震災後のエスノグラフィーに見る

コミュニティ・レジリエンス民話活動をめぐるコミュニティ・ナラティブから 村本 邦子 立命館大学

- O 2A-5 地域安全マップを作成可能な防犯ウォーキングアプリの開発(1)
  - ―防犯意識尺度の作成と信頼性・妥当性の検討―

大久保 智生 香川大学教育学部

米谷 雄介 香川大学創造工学部

八重樫 理 香川大学創造工学部

## 口頭発表 2B 2日目 6月23日(日) 10:00~11:30 5606教室

O 2B-1 過疎地域における高齢者の生きがいに及ぼす心理社会的要因

―サロン活動に焦点を当てて―

黒岩 由理 国立精神・神経医療研究センター

久田 満 上智大学

O 2B-2 対人援助職のメンタルヘルスケアにおける支援アプローチに関する文献研究

~無意識的感情理解の視点から~

坂下 優二 森の心理相談室

O 2B-3 若年女性労働者における仕事時間以外での会話が職場に対する

コミュニティ感覚およびワーク・エンゲイジメントに及ぼす影響

城田 夏穂 都立墨東病院

久田 満 上智大学

O 2B-4 小学生は集団宿泊活動でどのような体験をしているのだろうか

山田 文 上智大学大学院

久田 満 上智大学

## <ポスター発表>

ポスター発表 1 1日目 6月22日(土) 10:00~11:30 8階 大会議室 B 在席責任時間:P1-奇数 10:00~10:45 P1-偶数 10:45~11:30

P1-1 地域効力感が居住地域への評価に与える影響

岡本 卓也 信州大学 人文学部 前田 智子 信州大学 人文学部

P1-2 X地域における外国人住民の介護者申請 一韓国語を理解する介護者を希望する事例から一

市川 章子 一橋大学大学院言語社会研究科

- P1-3 東日本大震災被災地のコミュニティ・レジリエンス 〜岩手県気仙地域における五年祭のエスノグラフィーから〜 河野 暁子 立命館大学大学院
- P 1-4 民族文化による災害復興―台湾小林村大満舞踊団の事例から 張 亦瑾 立命館大学人間科学研究科
- P1-5 大学生の抑うつにおける援助要請促進のための介入プログラムの試行 一何が援助要請を促進するのか— 永井 智 立正大学
- P1-6 青年期における居場所の心理的機能と自己評価感情の関連

 橋本
 有理
 比治山大学大学院

 谷渕
 真也
 比治山大学大学院

 森本
 宏輝
 比治山大学大学院

 三好
 真人
 比治山大学大学院

- P1-7 フォト・ベースド・コミュニケーションの教育現場で活用
  - ―児童の自己開示傾向からの検討―

 林 幸史
 大阪国際大学

 青野 明子
 大阪国際大学

P1-8 発達障害児者をもつ保護者同士の相互交流支援プログラムの開発と評価

平田祐太朗鹿児島大学服巻豊広島大学高野恵代愛知淑徳大学

西依 一彦 佐賀県東部発達障害者支援センター結 大塚 理恵 佐賀県東部発達障害者支援センター結 中村 咲瑛 佐賀県東部発達障害者支援センター結

P 1-9 セルフヘルプ・グループにおける物語の世代的変化 一書き手と内容のテキストマイニング分析一 三好 真人 比治山大学

P1-10 独身アルコール依存症者における回復体験の分析

森本宏輝比治山大学大学院三好真人比治山大学大学院橋本有理比治山大学大学院谷渕真也比治山大学大学院

P1-11 大学生における経済的困り感と自尊感情、レジリエンスの関連について 飯田 昭人 北翔大学

P 1-12 ソーシャルスキル,感情調整と援助要請スタイルの関連 ーソーシャルサポート提供スキル,援助要請スキルを含めた検討ー 本田 真大 北海道教育大学函館校

## ポスター発表 2 2日目 6月23日(日) 10:00~11:30 8階 大会議室B

在席責任時間: P 2-奇数 10:00~10:45 P2-偶数 10:45~11:30

## P 2-1 防災教育の実践方法が中学生の自己効力感に与える影響

吉永 真理 昭和薬科大学

### P 2-2 高校部活動に対するメンタルトレーニング

―目標設定を中心とした関わり―

阿部 成雄 日本スポーツ振興センター

#### P2-3 ひきこもりの「就労後の居場所」としての自助グループ活動の分析

岩田 光宏 大阪市立大学生活科学研究科

三船 直子 大阪市立大学生活科学研究科

#### P2-4 心の健康教育に対する評価指標の開発(1)指標の作成プロセス

田中 志歩 上智大学大学院

落合 優理彩 上智大学大学院

佐藤 美月 上智大学大学院

関口 有美 上智大学大学院

春田 悠佳 上智大学大学院

伊藤 慎吾 上智大学

久田 満 上智大学

飯田 敏晴 立正大学

#### P2-5 心の健康教育に対する評価指標の開発(2)活用の一事例

落合 優理彩 上智大学大学院

関口 有美 上智大学大学院

田中 志歩 上智大学大学院

佐藤 美月 上智大学大学院

春田 悠佳 上智大学大学院

伊藤 慎吾 上智大学

久田 満 上智大学

飯田 敏晴 立正大学

- P 2-6 保育者のコミュニティ意識 の形成プロセス

  —TEA と SRA による混合研究法による混合研究法—

  香曽我部 琢 宮城教育大学
- P 2-7 地域支援者におけるペアレントプログラム研修の意義と課題 髙橋 紀子 福島大学
- P 2-8 留学生の日本におけるコミットメントの様相 --ハーディネスの一要素としての「コミットメント」からの検討— 岡村 佳代 聖学院大学
- P 2-9 スクールカウンセラーに対する相談の阻害要因に関する検討 一相談時の不安に着目して一 長塚 円花 山梨英和大学大学院
- P 2-10 セルフヘルプ・クリアリングハウスの機能に関する一考察 一啓発漫画作品の分析を通して一 渡邉 尚孝 梅光学院大学
- P 2-11 メンタルヘルス不調による休職によって職場の同僚に引き起こされる 連鎖的不調に関する質的検討 江浦 瑛子 東京大学大学院
- P 2-12 社会性と情動の学習(SEL)理論に基づくウェルビーイング促進モデルー大学生アスリートを対象とした縦断的検討ー

  八田 直紀 神奈川大学

  笹尾 敏明 国際基督教大学
- P 2-13認知症デイサービス・アクションリサーチ一認知症とは、私たちにとってどのような体験であったのか一竹森 元彦 香川大学内原 香織 龍雲メンタルクリニック

## P 2-14 多文化就労場面における日本人社員の葛藤解決方略、

外国人社員への就労意識、労働価値観の属性による分析

加賀美 常美代 目白大学

 小松 翠
 東京工業大学

 黄 美蘭
 首都大学東京

岡村 佳代 聖学院大学

## <自主企画>

## 自主シンポジウム 1 2日目 6月23日(日) 14:50~16:30 5605 教室

コンサルテーションにおけるアセスメントの視点

企画・司会

榊原 佐和子 東北大学 学生相談・特別支援センター

企画

大橋 智 東京未来大学

話題提供

大林 裕司 一般社会法人心理支援ネットワーク心 P

上田 将史 特定非営利活動法人 志木市精神保健福祉をすすめる会

郷 百合野 上智大学学生局カウンセリングセンター

## 自主シンポジウム 2 2 日目 6月23日(日) 14:50~16:30 5606 教室

コミュニティ心理学研究・実践における「地方性ー都会性」を問う

企画・司会

笹尾 敏明 国際基督教大学

話題提供

八田 直紀 神奈川大学·首都大学東京

桑山 碧実 国際基督教大学大学院

青木 多寿子 岡山大学

大内 潤子 北海道科学大学

笹尾 敏明 国際基督教大学

討論

奥山 祐介 防衛大学校

笹尾 敏明 国際基督教大学

## 自主ワークショップ 1 1日目 6月22日(土) 10:00~11:30 5606 教室

多職種連携教育に向けた心理職版ルーブリック(仮)作成の試み

企画・司会

平野 貴大 大妻女子大学

話題提供

荊木 まき子 就実短期大学

竹森 元彦 香川大学

#### ラウンドテーブル1 2日目 6月23日(日)13:00~14:40 大会議室B

コミュニティ心理学におけるエスノグラフィーの可能性と課題

企画・司会・話題提供

村本 邦子 立命館大学

話題提供

河野 晓子 立命館大学

張 亦瑾 立命館大学

# 日本コミュニティ心理学会第22回大会運営委員会

大会長 石盛 真徳 (追手門学院大学)

事務局長 林 幸史 (大阪国際大学)

運営委員 岡本 卓也 (信州大学)

加藤 潤三 (立命館大学)

高尾 堅司 (川崎医療福祉大学)

中尾 元 (追手門学院大学)

(50 音順)